

武蔵野市第六期長期計画・調整計画策定委員会

第3回作業部会

■日時 令和5年1月31日（火） 午後7時～午後8時20分

■場所 市役所802会議室

出席委員：渡邊委員長、岡部副委員長、木下委員、久留委員、古賀委員、鈴木委員、
箕輪委員、吉田委員、伊藤委員、恩田委員

欠席委員：中村委員

1. 開 会

委員長が開会宣言し、企画調整課長が、議事と配付資料について説明した。

2. 議 事

(1) 市民及び市議会各会派との意見交換について

【委員長】 討議要綱の1ページの初めに「『基本構想・長期計画』から、市民参加・議員参加・職員参加による『武蔵野市方式』と呼ばれる計画策定に取り組み」とある。我々がこんなにたくさんの意見交換をするのは、まさにここを反映している。市民の方々、議員の方々、職員の皆様と意見交換を行いながら、討議要綱でもんでいく。この計画策定に重要なプロセスについて、委員間でイメージの共有等をする。

市民との意見交換では、まず市民に1人3分で意見を言ってもらい、一巡した後の2回目以降は特に制限は設けない。ただ、私の経験から、一つの議題に集中してしまうことがある。第五期長期計画・調整計画のときの児童館がその典型だが、そうになると、ほかのことについての意見を言いたくても言えなくなる。その場合は、議論する時間を決めて、以後はそれ以外のことについての意見交換とするなど、当日の雰囲気、様子を見ながら、状況に応じてテーマ分けをする。

【委員長】 委員のオンライン参加は可能か。特に、市議会各会派等との意見交換に関してはどうなっているか、教えてほしい。

【企画調整課長】 委員のオンライン参加は可能である。市議会各会派等との意見交換の

主催は策定委員会なので、策定委員会の判断になる。市議会にも既に話をしている。

【委員長】 やむを得ない事情でオンライン参加も難しい場合には、他の出席者が代替対応する。

【A委員】 市議会各会派等、関係団体、圏域別の意見交換会は委員が一堂に会するが、オンライン意見交換会だけ「自宅等から」となっている。自宅から Zoom でとなると、委員同士での協議ができない。完全に孤立した状況で回答するのか。

【企画調整課長】 オンライン意見交換会以外の意見交換会では、対面した状態の市民から意見が出される。そのときにどう回答するか、委員間で協議している時間はない。それはオンラインであっても同じと考えている。あくまで委員としてのそのときの考えを述べていただき、委員会としては、持ち帰って議論したものが正式な回答になる。

【A委員】 過去の経験から言うと、その場の空気感で、担当分野でなくても振られることがある。それぞれが自宅から参加となると、そういう調整ができないのではないかな。

【企画調整課長】 その場の空気が共有できないというのがオンラインの弱点だと思っている。「私もそこについて回答をしたかった」という部分を委員会側でどうしたらいいかについては、我々も経験がない。逆にアドバイスをいただきたい。

【委員長】 Zoom のウェビナーは、委員全員をパネリストに登録すれば、パネリスト同士でチャットが使える。発言希望者は、挙手ボタンを押していただければ、私が指名する。

なお、オンライン意見交換会当日、私はロンドンからオンライン参加する。場合によっては議事進行をどなたかに行っていただくことになる。

不安があるようであれば、事前に 15 分ほど時間をとって、オンライン参加の練習をしてはどうか。

【企画調整課長】 日程を調整する。

【委員長】 事務局は集合形式をとるのか。

【企画調整課長】 集合形式を考えている。

【委員長】 どうしても不安な場合には、事務局のいるところから参加することは可能か。

【企画調整課長】 可能である。

【委員長】 委員は、オンライン意見交換会では、自宅なり、自分が自由に発言できる場所にいていただくこととする。策定委員はカメラをつけていただくほうが助かるが、必須ではない。状態の安定を優先していただきたい。

【委員長】 オンライン意見交換会では、事務局から、次の2点について伝えてほしい。

①画面に顔は必ずしも出さなくていい。もちろん、発言時に顔を出していただいたほうが我々もわかりやすいが、ルールとして求めることはしない。

②名前は、「〇〇さん」と指名できるように、記号等は使わず、かつ公序良俗に反しない名前を表示する。

パネリスト以外の参加者のチャット欄は閉鎖で、画面共有等の権限も持たないので、参加者による「荒らし」が起きることはない。不測の事態のときには事務局のほうでミュートにするなど対処願いたい。

【企画調整課長】 対面による意見交換のときも、「地区とお名前をお願いします」というご案内をするので、オンラインでも地区は入れていただきたい。

【委員長】 オンラインは、「名前（吉祥寺北町）」等とする。また、在勤・在学の方は「〇〇（市外）」等と表示していただき、表示のない方には、事務局から、チャット欄を使って「名前の変更をお願いします」とご案内いただきたい。実験的な試みでもあるので、まずは参加しやすい方法をとってほしい。

チャット欄に書かれたことは委員全員で共有し、差配する。

【委員長】 意見交換会について、第六期長期計画策定委員だった委員から、前回の経験等をお伝えいただき、雰囲気の共有をしたい。

【A委員】 非常に熱心な議論というイメージだ。それぞれの意見交換の場で真摯にご意見を頂戴した。丁寧に対応しようという意気込みで臨んだが、圏域別では人数が少ないことが残念だった。その分、内容の密度を濃くできるのではということも期待したが、淡々と進んだ。

今、気になっているのは、討議要綱に書いていない話題を振られる場合についてだ。臨機応変に対応せざるを得ないが、いきなり否定はせずに、一旦は聞いて、「受け止めさせていただく」としていた。

【副委員長】 基本的にはお互い建設的で、問題は感じなかった。自分の主張を聞いてくれという人たちに対しては、A委員と同様に、意見をしっかり聞くという姿勢でいた。

【B委員】 関係団体と圏域別は、個人の事情を訴えてくる方がいらっしやる。個人情報もあるため、まずは意見をしっかり聞いて「受け止める」こととする。

市議会議員も武蔵野市民だが、意見交換というより、議会の質問のような形で来る方もいらっしやる。こちらは答弁という形ではなくて、議員さんの主訴を聞き取り、適宜意見を受け止めるというスタンスでやりとりする。

【C委員】 関係団体の方々は、専門性が高い。緑・環境分野では、剪定の仕方についてなど、かなり細かい話があった。

【委員長】 意見は、討議要綱に関わる内容とは限らない。また、必ずしも我々が対応すべきマターではないもの、個別の話や国・都道府県が既にやっていること等がある。我々が確実にわかる範囲であれば、その情報をご提供してもいいし、わからない場合は「確認する」「策定委員会に持ち帰って議論する」として全く問題はない。

我々も市民として参加する委員という立場で臨むので、意見を言いたくなることがある。そのときは、簡潔に自分の意見を言う。特に、市民委員の方々は、意見を言う参加者に共感を示すことや、「私はちょっと違う」ということ、このことは言っておきたいということを書いていただいて構わない。思いを持って策定委員になっているということが市民に伝わることに意味がある。

関係団体に関しては、陳情のように感じるときがあるが、討議要綱は計画策定にあたり討議するものなので、意見を聞いて受け止める。

議員との意見交換で、論点がわからないときは、「あなたはどうしたいのか」と返して構わない。どちらかが一方的に言ったり言われたりすることに生産性はない。遠慮なく踏み込んで、それをたたき台に一緒に議論する。

【A委員】 調整計画は、議員側も関係団体も圏域別も、皆さんひとしく長期計画を踏まえていることが前提である。討議要綱で初めて示していることではなくて、長期計画に基づいてまとめている。討議要綱に盛り込む、盛り込まないという判断はあったが、長期計画でお示ししている考え方に基づいて我々は議論してきた。議員の皆様がそれを踏まえていなければ、長期計画ではそう書いてあると申し上げる。市議会での活動でも長期計画は踏まえるべきものだという共通認識でいたい。

【委員長】 私が初めて参加した五長調のときは、それをむしろ議員から言っていた。議員からの建設的で大事な指摘もある。

【D委員】 今回初めて臨むが、楽しみにしている。70年近く住んでいても、知らないことばかりだった。具体的に考えていくチャンスだと思っている。また、自分の考えを述

べていいと言われたので、安心した。

持ち帰るという形の場合、正式にアフターフォローする場があるのか。それとも、それぞれの質問に、後日こういう形で答えると伝えるのか。

【企画調整課長】 いただいた意見は、全て策定委員会として回答し、公表する。質問者の連絡先を聞いて、その方にお伝えすることはしない。また、公表した回答に、誰が発言した内容かということは書かない。策定委員会としてどういう回答をするかは、策定委員会で議論する。

【委員長】 例えば、市民プールについては様々な意見が来るだろう。それぞれの意見を箇条書きして、策定委員会で議論し、最終的にどうなったかという一覧をつくる。特にパブコメは膨大な量が来るので、同じ内容はある程度集約して、回答を入れた一覧表にする。策定委員会で議論していなかった観点には「今後議論する」として、討議要綱後の4月以降、策定委員会で議論する。我々の権限外のものについては「それは我々の権限外です」と書くなど、全部に回答して、リストをつくる。

どういう意見交換になるのかは時と場合による。過去の長期計画策定時の議事録等も見ただけであれば、雰囲気をつかむことができる。市民参加・議員参加・職員参加で一緒につくっていくために、我々の思いをしっかりと説明し、有意義な時間としたい。

(2) 市内視察の振返り等について

【委員長】 前は集中豪雨で行けないところが多くあった。改めて見たいところとしては、私は、やはりプールと松露庵だ。

意見交換をする中で視察が必要なところが出てきたときは、いつごろをめどに事務局に伝えればよいか。

【企画調整課長】 視察は5月20日(土)を予定している。ルート等を考え、現地に事前に連絡等もしなければいけないので、4月中旬ぐらいまでには決める。

【A委員】 外環の2は六長のときと今回で2回見たが、現地で「ここを通る」ということだけではよくわからなかった。

【C委員】 現状、計画線があり、その下は本線が事業化されて動いているということの説明が難しく、どうしてもわかりにくくなる。今は東京都が市民のご意見を吸い上げて、

事業をするのかしないのかも含めて検討している。ただ、地域の方々の関心は非常に高い。10年を見通した長期計画の中で、それを素通りするわけにはいかないということで、これまでも記述されてきた。

【A委員】 D委員が屋外プールの議論でおっしゃったイメージパースのようなもので、このように道路が通るというのを頭に入れて現地に行くことで、イメージしやすくなる。

【C委員】 現地の近くにある吉祥寺南町コミセンで、今、計画されているイメージ、道路の構成について、担当が説明してもよいのではないかと考えている。

【D委員】 都市計画図や用途地域図を一緒に見ると、よりイメージが湧く。

【委員長】 外環の2はかなり大きい。立ち退きだけでなく、地域そのものが分断される可能性があり、市民の関心は高い。「反対と書いてください」という意見も出る。女子大通りも同様だ。来年、再来年に動くものではないとはいえ、粛々と動いてくる可能性もある。皆さん方の不安やご関心等を踏まえて、受けとめざるを得ない。

その他、補足資料等の希望は遠慮なく言っていただき、事務局は無理のない範囲内でご検討いただきたい。

(3) その他

【D委員】 「データから見た武蔵野市～武蔵野市地域生活環境指標～」には都市計画用途地域の図面が入っている。武蔵野市全域を把握するという意味でも、皆さん、都市計画図を持っていたほうがいい。

【C委員】 都市計画図は事務局から配布していただきたい。都市計画関係はその1枚で把握できる。

【副委員長】 毎回同じことを言っているが、語尾について。「構築していく」と「構築する」は意味が違うのか。「検討していく」と「検討する」は意味が違うのか。

【企画調整課長】 意味は同じだ。受け手側の印象、どちらが相手に響くかで言葉を使い分けている。委員会での指摘を受けて、語尾を全部見直した結果、ここは「していく」、ここは「する」と判断した。

【副委員長】 では、「図る」と「図っていく」は、メッセージとしてどういう違いを出したいのか。受け手とは誰か。

【企画調整課長】 受け手とは、読み手をいう。「図る」は言い切りであり、「図っていく」は、今後それを目指してやっていくということが含まれる。

【副委員長】 討議要綱 33 ページの緑・環境分野の枠の中の3、「推進していく」を「推進する」に直すよう指摘したが、直っていない。

【企画調整課長】 ここに修正のご指摘をいただいたのは確認したが、この枠の中は六長の議決事項であり、修正できない。

【総合政策部長】 議決事項に関しては、七長への課題にならざるを得ない。

討議要綱 35 ページの基本施策5の(1)は、国や都へ求めるもので、市が何かすれば実現することではない。相手があり、継続が重要というニュアンスを出すため、検討したうえで「求めていく」とした。次の「促していく」も同様である。

【副委員長】 討議要綱 66 ページの用語説明で「ICT」が抜けている。当時はICTだったが今はDXで、「DX」を入れているから、それでいいということか。

【企画調整課長】 六長の用語説明には「ICT」が入っているが、大分浸透してきた言葉で、用語説明に入れなくても大丈夫だろうという判断で「ICT」は入れず、「DX」を入れた。「ICT」も必要ということであれば、計画案をまとめるときに用語説明に入れることは可能だ。

【委員長】 計画案で復活させるかどうかも含めて検討する。枠内の議決事項部分は変えられないが、それ以外の部分の語尾、表現その他についても委員各位でご確認いただき、気がついたことは事務局にお寄せいただきたい。

委員長が、第六期長期計画・調整計画策定委員会第3回作業部会を閉じた。

以 上